第４回　地区別懇談会【④温泉地区】

日時：令和3年7月８日（木）18:00～

場所：町内会長宅

次 第

１．開会挨拶

２．治水対策に関する国・県からの説明

３．地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明

（１）地区別懇談会の振り返りと情報提供【資料１】

（２）懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向（更新案）について

①復興まちづくりの方向案（前回意見を踏まえた更新案）【資料２】

②復興まちづくりのイメージ案（前回意見を踏まえた更新案）【資料２】

③事業手法メニュー例と参考事例【資料３】

４．地区ごとの話し合い

（１）復興まちづくりの具体的イメージや手法案について

〇取組み方針、具体の取組み、イメージ案について、問題はないか？　目指す将来像は？

〇地区全体の活性化に向けて重点的に協働して取組むべき施策やアイデアは？

〇有効と考える事業手法や参考事例は？

（２）今後の進め方、次回日程の調整、連絡体制の確認について

５．全体共有

６．その他

７．閉会挨拶

【資料】

・資料１：地区別懇談会だより第２号、市全体版（地区別懇談会の取組状況のお知らせ）

・資料２：復興まちづくりの方向とイメージ（更新案）

・資料３：参考事例

・資料４：参考資料

地区別懇談会だより Vol.2

温泉下林地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第３回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、**地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」**として位置づけ、それぞれの地区ごとに**「地区別懇談会」**で話し合いを進めています。

温泉下林地区の対象地区は、下林町、中林町、温泉町です。

◆第３回地区別懇談会

１　地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
- ・地区別懇談会の振り返りと情報提供
- ・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向案、イメージ案と参考事例について

２　地区ごとの話し合いと全体共有
- ・復興まちづくりの方向案（課題、取組方針、具体の取組み案）について
- ・復興まちづくりのイメージ案について

３　今後の進め方と次回日程の調整

６月 16 日（水）18 時から、
町内会長宅で開催しました。（参加人数：23 名）

６月 16 日（水）18 時から、
中原ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰで開催しました。（参加人数８名）

懇談会の進め方について　～復興まちづくり計画の策定に向けて～

地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を「復興まちづくり計画」に反映していきます。

◆地区別懇談会の参加方法

参加募集中

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
  ※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただきます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。
  多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

- ・7~9 月の間に、概ね月１回（3~4 回程度）の開催を予定しています。

次回の開催予定：**第４回　７月８日（木）18 時より**

次回のテーマ予定：復興まちづくりの具体的イメージや手法案について

温泉町会場:町内会長宅
（下林町・中林町は別途日程調整）

◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくり（策定主体は主に住民）に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和４～9 年度の概ね６年間。（令和３年度からの一部実施も想定）

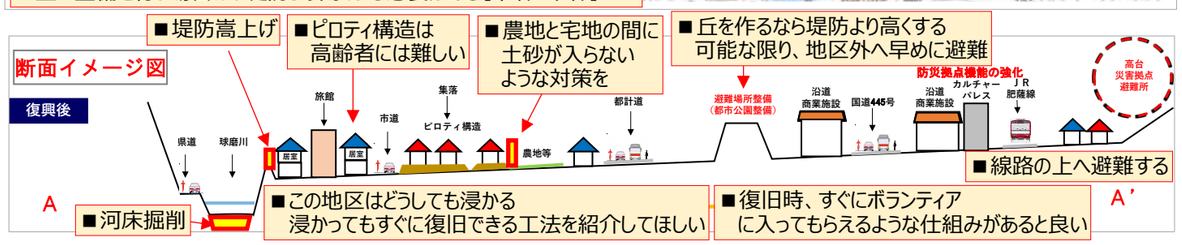
温泉下林地区の『復興まちづくりのイメージ案』について　～第３回懇談会の意見概要②～

黄色網掛け箇所が第３回懇談会の参加者の主な意見です。(※決まった内容や事実確認をした内容ではありません)

温泉下林地区　復興まちづくりのイメージ（案）

【市街地の浸水対策】堤防強化、遊水地、放水路などとともに、
嵩上げ、建物１階ピロティ化、建物構造耐水化などを推進。
【避難路の整備】地区の幹線道路の災害耐性を向上、
河岸側から山手に向かうネットワークとして、避難路を整備。
【緊急避難場所の整備】新たな都市公園を整備
【カルチャーパレス・村山台地】防災拠点としての安全性、機能拡充を推進

凡例
- 河川整備方針の確認
- 避難路
- 避難場所、避難所
- 安全な避難場所



◇お問い合わせ◇

人吉市役所　復興局　復興支援課
〒868-8601　熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線：8893)　Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

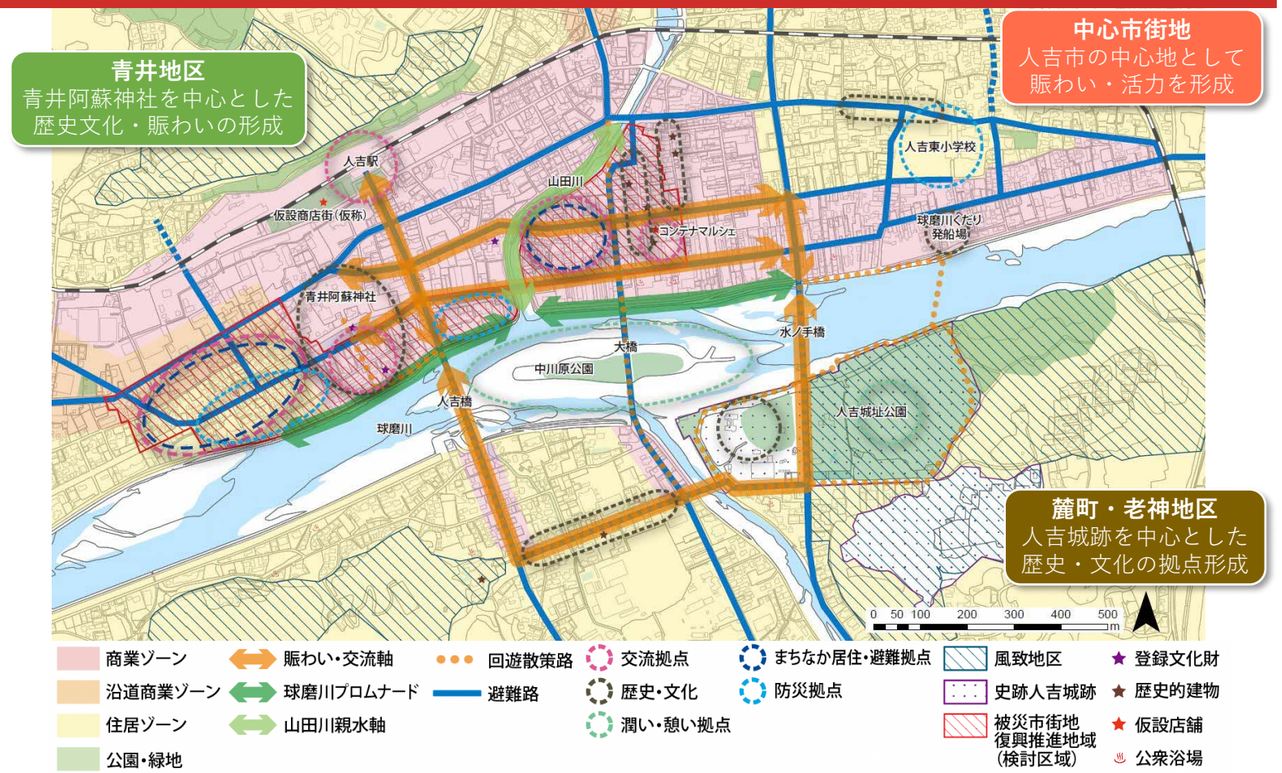
温泉下林地区における、これまでの地区別懇談会意見を踏まえた『復興まちづくりの方向（案）』について　～第３回懇談会の意見概要①～

□は方向案の柱、赤字は事務局側での記載事項です。　黄色網掛け箇所が第３回地区別懇談会における参加者の主な意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

意見集約のキーワード （復興計画の３つの柱）	地区の主な課題 （地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針 （課題解決のための取組み方針の柱）	具体の取組み（案） ※実現化に向け、今後検討が必要
①被災者のくらし再建と コミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	**□住まいの再建にあたっての方向性が必要** ・被害を受けた所は平等に支援があるようにしてほしい。 **□集会所とコミュニティの再生が必要** ・直売所の運営により、顔が見える関係性を構築してきたが、運営側が高齢化している。助け合いながら続けたい。【下林・中林】 ・公民館以外のコミュニティの場として、デイサロンや直売所などがある。【下林・中林】 ・グラウンドゴルフや運動会など町会対抗スポーツ大会やお祭りなどの行事が多くある。【下林・中林】	**□住まいの再建における安全性の向上** ・既に再建している家もありまちづくりが動いている。発災後１年経つ今から決めてできるのか？市の動きが遅い。発災３ヶ月後ぐらいに、皆が動く前に具体的な方針を示しておくべきだった。今からは、球磨川に浸水させない人吉づくりに重点を置くべき。【温泉町】 **□集会所の再建とコミュニティの再生** ・何十年と培ってきた温泉町のコミュニティを復旧して欲しい。 温泉町のメインは温泉。いち早く復旧して欲しい。 老人福祉センターの施設を直した上で、地元で運営できないか。 温泉町町内会で指定管理者になれないか。 次回、担当課にも来て欲しい。 どうすればできるか。【温泉町】	**□安全性を高める建て方の誘導** ・やるのであれば地区全体に５m以上は嵩上げする必要があるが、非現実的。【温泉町】 ・嵩上げや移転などに対する公的助成はあるのか？ ・沢を埋めるのは危険。尾根は削って良い。地形をしっかり見分けるべき。 ・個人的には土地の嵩上げも堤防の嵩上げも無理だと思う。 ・皆で考えるのは有難いが、時間もお金もかかる。できない事ばかりに見える。次に何かあれば他所へ脱出する。 **□コミュニティの核としての集会所の再建** ・世帯が減っている。迷っている人もいる。知らない情報も多い。できるだけ情報開示をしてほしい。 ・ピロティ構造にしていたが浸った。油断していた。それぞれの現実をふまえて。 ・身近に情報を提示して欲しい。一部の地域だけ恩恵を受けるのではなく平等に。 ・公民館の再建。【下林・中林】 [改修済：下林前村町会、下林仮屋町会、中林町会][改修中：下林後村町会] （上林町会は被害なし） ・今後も様々な行事を継続していくことで町内のつながりを深める。【下林・中林】 ・老人会を設立し、新たな行事も行う。【中林】
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	**□地域の温泉と観光の再生** ・一番泉質が良い。【温泉町】 **□早急な農地の再生** ・農業者が高齢化し、集まって話ができない。 現状復旧しかできず、営農できない。【温泉町】	**□観光資源である"温泉"を活かしたまちづくり** **□農地の再生による生業の再建** ・農業関係の用水路等に残るがれき等はさらってほしい。【温泉町】	**□観光資源としての温泉の復活** **□農地の再生** ・30 町歩で協力して田んぼダムを進めてはどうか。小さいことから解決する。【温泉町】
③災害に負けない まちづくり 【避難対策】	**□安全な避難ルートの確保** **□避難施設の確保・改善** **□適切な情報発信** **□避難時に機能する仕組み・体制の構築** ・新しい連絡体制に課題がある。【下林・中林】 ・樋門係から住民への情報伝達の仕組みづくりが必要。【下林・中林】 ・民生委員への防災情報伝達の仕組みを再度周知する（以前の方法と変更がある）。【下林・中林】	**□安全な避難路の整備** ・逃げるための道路を拡げる。【温泉町】 **□避難所の機能拡充** **□緊急避難場所の整備** **□適切な情報発信の実施** **□全員が避難できる仕組みづくり** ・温泉町は何をどうしても浸かる所であり、逃げるしかない。 ・今回経験しおおよそわかるので１日前に逃げる。【温泉町】	**□村山公園への避難路の整備** ・避難先は村山しかない、という意識が皆にあるため、集中して渋滞する。【温泉町】 ・避難地として錦町のイオンの方が良い。【温泉町】 ・皆が安全に避難できるように避難場所をしっかり確保する。【温泉町】 ・地域のことを受け入れるしかない。早く避難するために、早く情報を出してほしい。【温泉町】 ・スポーツパレスから村山までの避難路の拡幅。【下林・中林】 **□安全な避難場所の整備** **□防災情報の伝達機能強化** ・上流の降雨量情報も合わせて知らせると、よりインパクトがあり、避難時の判断材料になる。 ・地域のつながりをつくり、連絡体制を確保する。まずは顔見知りになる。【下林・中林】 **□地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成** ・国が出した千年に一度という想定最大規模のハザードマップは恐怖心をあおるだけで、避難ルートも示されていない。 ・市は避難にネックとなる箇所をチェックし管理すべき。道路にはみ出た樹木の管理が不十分。 ・消防団を頼る。高齢者同士の助け合いが難しい。【温泉町】 ・会長をはじめ、誰が誰を避難させるか。助け合いのシステムが必要。【温泉町】
【治水・土砂災害対策】 ・今回の水害の根本の原因は球磨村の渡から水が押し戻されたことであり、球磨川の流れによる被害ではないのでは？	**□小河川の氾濫** ・ポンプ場修理に２年かかる。電源も未復旧。 ・福川の堤防が球磨川の堤防より低い。 ・用水路から溢れた。【温泉町】 **□球磨川の治水対策** ・昭和 40 年から５回浸水している。中原小学校に避難した。 ・流木が鉄道橋で堰き止められ錦町、相良村から一気に溢れた。【温泉町】	**□小河川の氾濫対策の推進・促進** **□流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下** ・治山についても決めるべき。伐採後の植林の義務化等。道路を造って山へ上がっているが、道路が川になる。 ・市が負担するのではなく、河道をさらうなど、国にやってもらえることをする。	**□小河川の氾濫対策の推進・促進** **□流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下** ・渡付近にトンネルを掘り、流れをバイパスさせるか、球磨川を３倍に拡げれば、水害に遭わない。60 年前に静岡でバイパスを造っている。 ・球磨川の堤防を 80 ㎝～1.5m高くし、河床を掘削し低くする。それでもダメなら、球磨川の流量を他に分け、時間を稼ぐ。 ・溜まった土砂を取り除く。 ・市房ダムの管理状況やデータについて、皆にわかるように公表して欲しい。

・懇談会に来る毎に、お土産の話を持って帰れるようにしてほしい

まちなかの復興まちづくりの取組方針（案）



各地区の懇談会での主なトピック

中心市街地

九・七・五・二日町、鍛冶屋町、大工町、紺屋町、上・下新町、鶴田町、北・南泉田町

中心市街地は、人吉市の中心地として、賑わい・活力を形成するため、くらしの再生や避難対策とともに、各町の特性を活かしたまちづくりの方針や具体の整備手法を中心に検討を進めています。

- □**地区内の主要道路・避難路の整備、垂直避難ができる避難場所・車での避難場所の確保**
- □**自助共助の避難体制の構築、来街者・観光客の避難誘導対策、実践的な避難訓練の実施**
- □**避難所機能の充実、まちなかの防災・避難支援スペースの確保**
- □**中心市街地のグランドデザインの作成～面的なまちづくりの実施、歴史的建物や路地空間等を活かした街並み形成**
- □**球磨川を活かしたまちづくり（親水空間の整備、発船場～城見庭園の拠点化）**

青井地区

上・中・下青井町、駒井田町、城本町

青井地区は、中心地の一翼として、くらしの再建や避難対策とともに、青井阿蘇神社を中心とした歴史文化を活かした賑わい形成の方策を中心に検討を進めています。

- □**地区の安全性向上に資する道路の整備(北部高台避難場所への避難路の整備、国道の整備)**
- □**垂直避難や車移動に留意した避難場所の確保（避難場所の浸水対策、避難場所の協定）**
- □**安全性を高める建て方の誘導、集会所等の再建、新規店舗の誘導、小河川氾濫や急傾斜地の対策**
- □**青井阿蘇神社周辺の賑わい形成(公園や集客空間の整備、門前町としての整備、水辺の活用)**
- □**良好な市街地環境形成(面的まちづくり手法等を活用した浸水対策と道路・公園・広場等の充実)**
- □**国道整備と連携した活気ある沿道市街地の形成(沿道への店舗誘導、歩行環境の充実)**

麓・老神地区

麓町、老神町、新町、田町、南寺町

麓・老神地区は、球磨川や胸川による浸水の危険性に備えて、安全な避難所・避難場所の確保や人吉城址周辺の活性化等に向けた取組を中心に検討を進めています。

- □**市街地の衰退の分析**
- □**人吉城址周辺の活性化**
- □**地域性を踏まえた防災マップの作成**
- □**情報発信機能の強化**
- □**コミュニティの再生**
- □**安全な避難場所・避難ルートの確保・確認**
- □**防災意識の醸成、体制の強化**

資料1-2

人吉市の復興まちづくり

地区別懇談会の取組状況のお知らせ

2021. 7.1 発行

地区別懇談会の開催状況と今後の予定について

- 甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、**地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」**として位置づけ、それぞれの地区ごとに**「地区別懇談会」**で話し合いを進めています。
- 地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を**「復興まちづくり計画」**に反映していきます。

●重点地区 大柿地区、中神地区、温泉下林地区、薩摩瀬地区、左岸地区、中心市街地、青井地区、麓・老神地区

視点１	視点２	視点３
住宅被害が甚大で、現在地での住宅再建または移転の方向付けが必要な地区	避難のありかたを見直すことが必要な地区	国・県の流域治水対策が示され、市の相談・支援が必要な地区

●検討状況

校区別座談会 → 4月 地区別懇談会（課題の確認～取組み方針の検討） → 7月 地区別懇談会（取組内容の具体化） → 地区別懇談会（復興まちづくり計画の取りまとめ） → 9月～ 計画策定 → 計画の推進

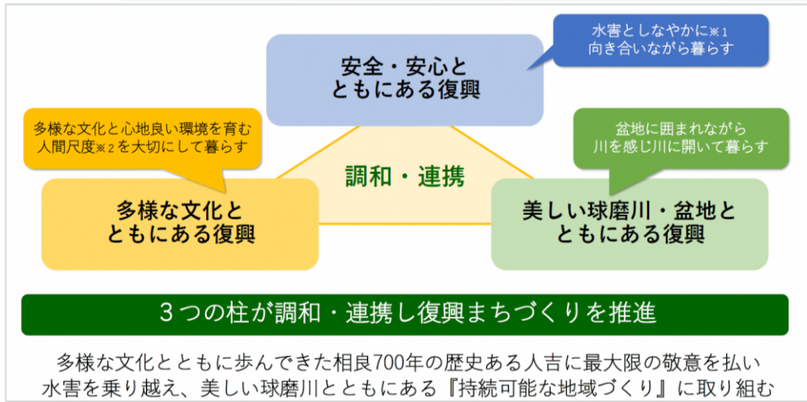
- ８月頃に、各地区の検討状況を共有する**中間報告会**を開催予定です。
- 重点地区以外においても、８月を目途に**校区別座談会**を開催予定です。

復興まちづくり計画の策定に向けて

●復興まちづくり計画とは

- 復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- 特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- **住民主役の計画づくり（策定主体は主に住民）に対して、行政が支援**し、計画策定をめざします。
- 計画期間は、令和４～９年度の概ね６年間です。（令和３年度からの一部実施も想定）

現在、懇談会では、取組の方針と具体の取組みについて検討を進めています。検討中の主な取組の一部を、中面及び裏面でご紹介しています。



左図：
人吉市まちなかグランドデザインの方向（案）（中心市街地第３回懇談会資料より）

懇談会は、対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます

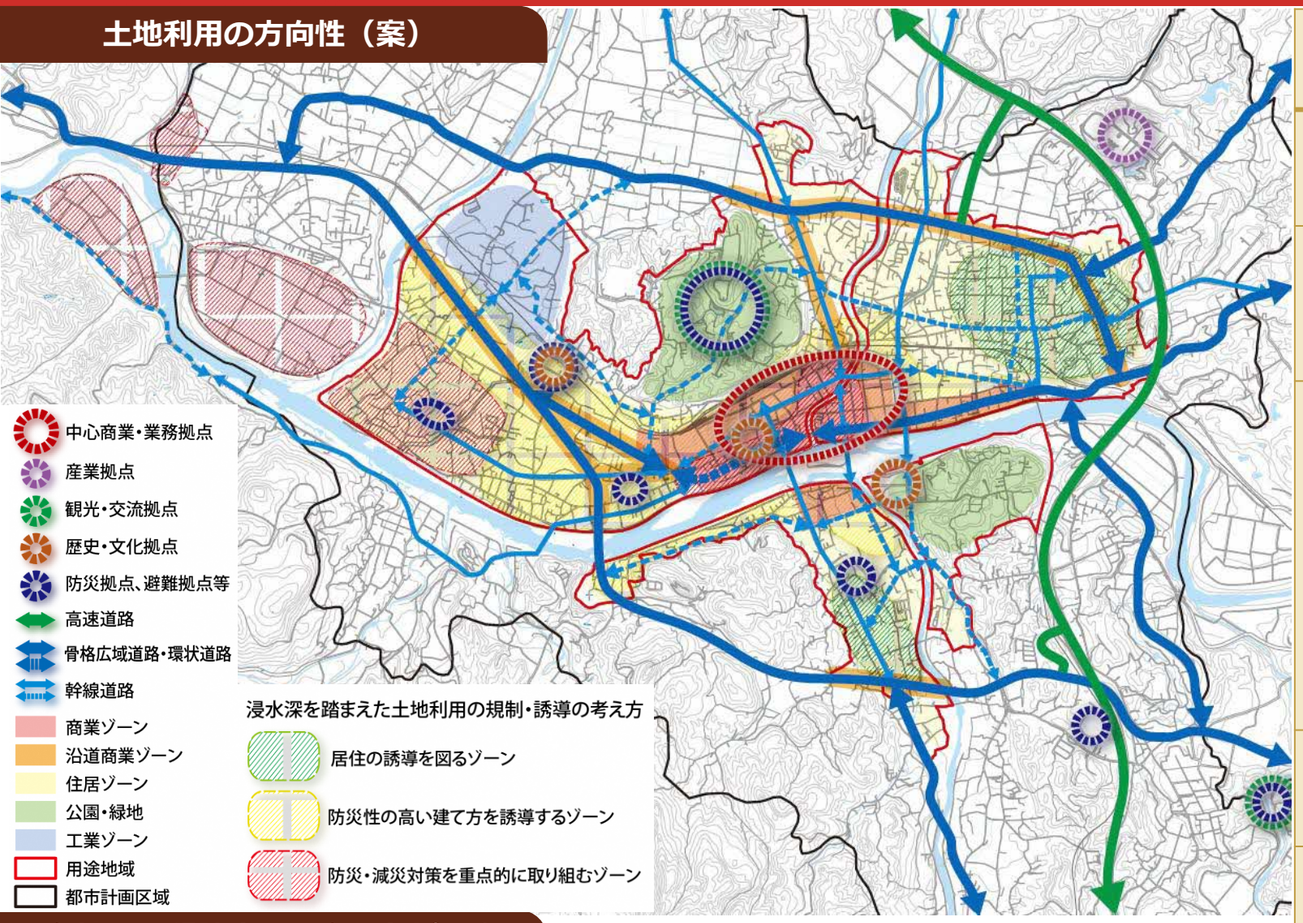
◇お問い合わせ◇　人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町1578-1
Tel:0966-22-2111(内線：8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

地区別懇談会の開催のお知らせは、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない方はお問い合わせください。

各地区の復興まちづくりの取組方針（案）

「地区別懇談会」で検討中の内容をお知らせします。
ご関心のある方は、ぜひ次回の懇談会にご参加ください！

土地利用の方向性（案）



各地区の復興まちづくりの取組み方針（案）	※各地区の復興まちづくりの取組み方針は、以下の項目を基本としつつ、地区の特性・課題に応じて、主な取組みのメニューを選択し、検討を進めています。
①被災者のくらし再建とコミュニティの再生【住まい再建】【コミュニティ再生】	住まい再建における安全性の向上
	コミュニティの再生
	集会所等のコミュニティ拠点の再建
②力強い地域経済の再生【生業再建】	まちなかの生業再生に向けた環境づくり
	観光資源である”温泉”を活かしたまちづくり
	人吉城址周辺の活性化
	農地の再生による生業の再建
③災害に負けないまちづくり【避難対策】	安全な避難路の整備
	緊急避難場所の整備
	複数の避難場所の確保
	「安全な避難」のための「平常時の準備」
	適切な情報発信の実施
	地域性を踏まえた自助共助の避難誘導体制の構築
	避難所の見直し
	避難所の機能拡充
	避難所・自主避難所の運営方法の検討
【復興まちづくり】	地域特性を活かした魅力ある復興まちづくりの推進
	一体的な復興まちづくり方針の共有
	人が集い、過ごす風景の再生
【治水・土砂災害対策】	内水対策、排水対策の推進・促進
	急傾斜地対策
	※流域治水プロジェクト

各地区の懇談会での主なトピック

中心市街地、青井地区、麓・老神地区については、裏面をご覧ください。

大柿地区

（中神町大柿、小柿）

大柿地区は、今次豪雨による被災状況を踏まえ、住まいの再建やコミュニティの再生、農地の復旧、避難路・避難所の見直し等の取組を中心に検討を進めています。また、流域治水（遊水地）については、国の検討状況を確認しています。

- □安全性を高める住まいの再建方法の誘導
- □農地復旧・農業の継続
- □安全な避難路の整備
- □避難所の見直し・機能拡充
- □防災情報の伝達機能強化
- □地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成
- □治水対策（遊水地）に関する情報提供

中神地区

（中神町城本、段、馬場、下原田町瓜生田）

中神地区は、今次豪雨による被災状況を踏まえ、住まいの再建やコミュニティの再生、農地の復旧、避難路・避難所の見直し等の取組を中心に検討を進めています。また、流域治水（遊水地）については、国の検討状況を確認しています。

- □安全性を高める建て方の誘導
- □農地復旧・農業の継続
- □安全な避難路の整備
- □避難所の見直し・機能拡充
- □防災情報の伝達機能強化
- □地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成
- □自助共助の避難体制の構築
- □治水対策（遊水地）に関する情報提供

温泉下林地区

（下林町、中林町、温泉町）

温泉下林地区は、球磨川・万江川や小河川による浸水の危険性に備えて、「早めの避難」など避難方法の見直し、コミュニティの核となる場の再生等の取組を中心に検討を進めています。

- □安全性を高める建て方の誘導
- □コミュニティの核としての集会所の再建
- □観光資源としての温泉の復活
- □農地の再生
- □村山台地への避難路の整備
- □安全な避難場所の整備
- □防災情報の伝達機能強化
- □地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成
- □内水対策の推進・促進

薩摩瀬地区

（宝来町、相良町、上薩摩瀬町、下薩摩瀬町、下城本町）

薩摩瀬地区は、球磨川や御溝川による浸水の危険性があるため、避難方法の見直しや地区内での緊急避難場所の確保、住まいの再建における安全性の向上等の取組を中心に検討を進めています。

- □安全性を高める建て方の誘導
- □公民館の再建
- □地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成
- □防災情報の伝達機能強化
- □緊急避難場所（災害公営住宅兼避難ビル等）の整備
- □自助共助の避難体制の構築
- □継続的・定期的な避難訓練
- □内水対策の推進・促進

左岸地区

（西間下町、矢黒町、下戸越町）

左岸地区は、球磨川と支流、急傾斜地に挟まれており、浸水と土砂災害の危険性があるため、「早めの避難」の徹底や「安全な避難」を実現するために必要となる取組を中心に検討を進めています。

- □地区内の主要道路の整備（拡幅や急傾斜地対策）
- □堤防道路の避難路としての整備
- □地域性を踏まえた防災マップの作成
- □地域内への実績浸水深の表示
- □情報発信機能の強化
- □避難支援ツールの配備
- □効果的な避難訓練の実施
- □安全な避難場所、車での避難場所の確保
- □矢黒第二排水樋管周辺の浸水対策
- □西瀬コミュニティセンターの防災機能強化

温泉下林地区　復興まちづくりの方向（案）　～これまでの地区別懇談会意見を踏まえた具体的な整備内容～

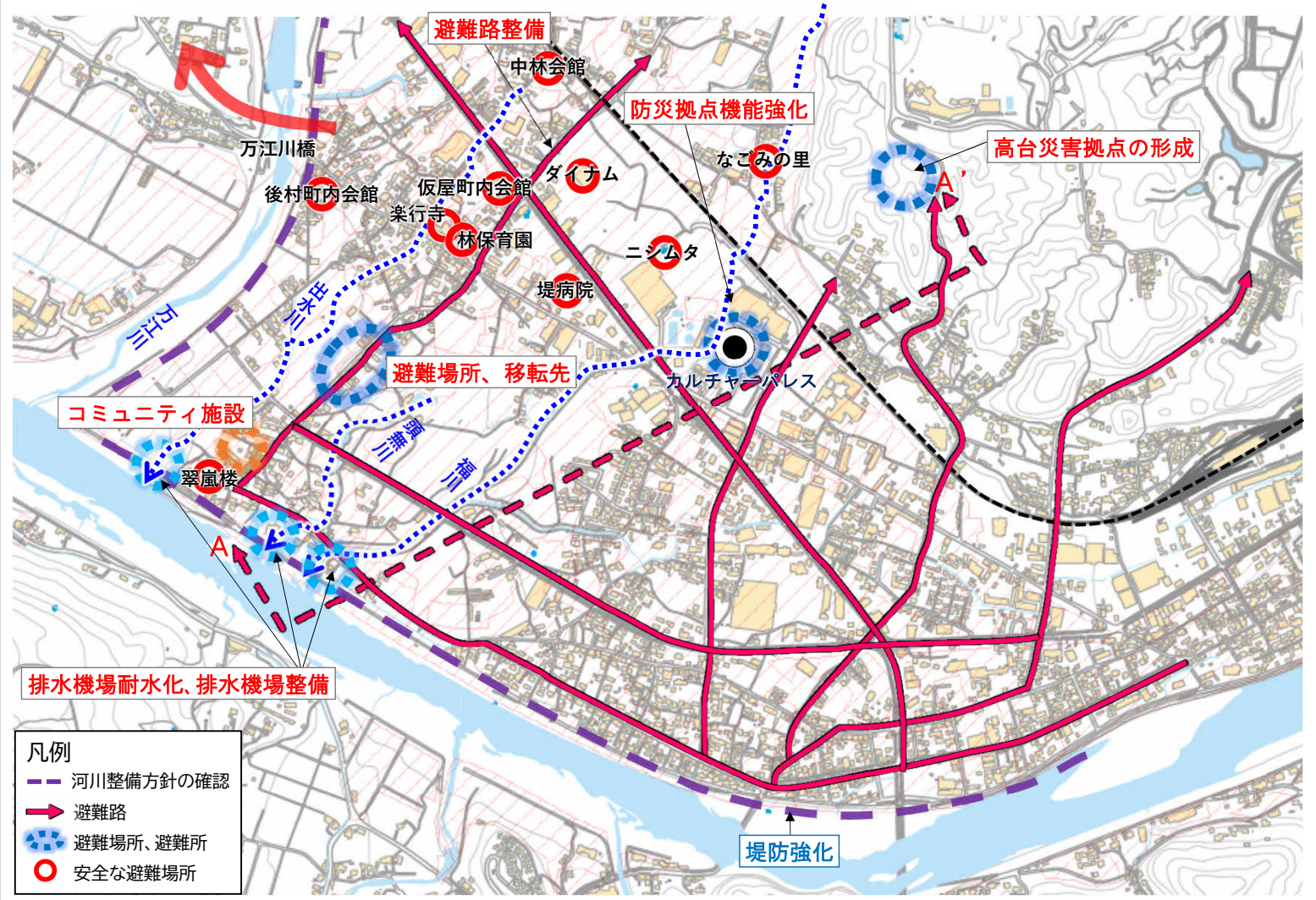
資料２

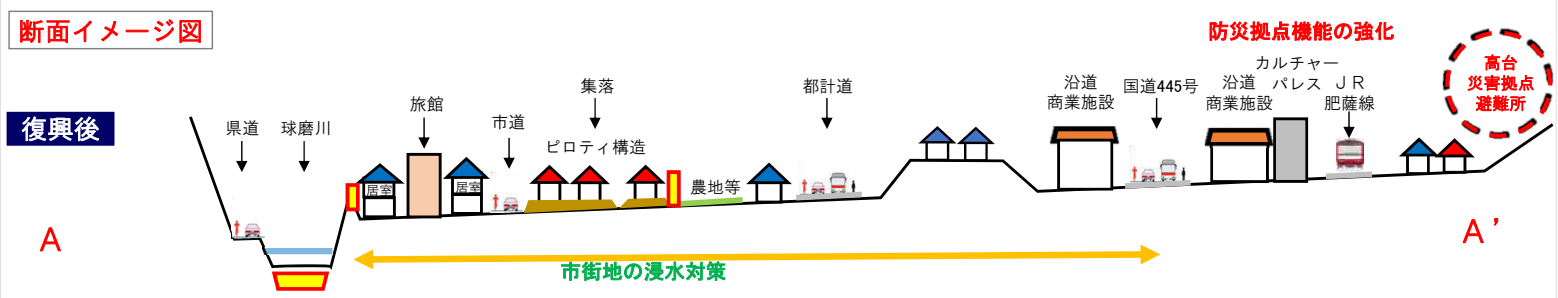
地区の将来像（案）：川と共存し地域資源を活かした助け合いで築くまち

赤字：事務局側での記載事項　青字：検討のポイント

意見集約のキーワード（復興計画の3つの柱）	具体の取組み（第3回事務局案）	取組みに対する第3回意見概要	具体的な整備内容の検討
①被災者のくらし再建とコミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	**□安全性を高める建て方の誘導（例）** ・建物１階のピロティ化、浸水深以上の居室の確保。 ・建物構造の耐水化。 ・住宅再建に係る各種スキームの説明会の開催。 ・宅地の盛土・嵩上げ　等。 **□コミュニティの核としての集会所の再建** ・通常は地域のコミュニティの核、災害発生時には避難所としての機能を果たす施設として整備。	**□安全性を高める建て方の誘導（例）** ・地区全体に５m以上は嵩上げする必要があるが、非現実的。 ・嵩上げや移転などに対する公的助成はあるのか。 ・次に何かあれば他所へ脱出する。 **□コミュニティの核としての集会所の再建** ・既存施設を直した上で、地元で運営できないか。 ・公民館の再建。【下林・中林】 ・行事を継続していくことで町内のつながりを深める。【下林・中林】 ・老人会を設立し、新たな行事も行う。【中林】	**□安全性を高める建て方の誘導（例）** ・個別嵩上げ、盛土、ピロティ化、耐水化住宅、地区内移転など ※安全性を高めて、住み続けるために何が必要か？ **□コミュニティの核としての集会所の再建** ・コミュニティ施設としての再整備 ※地元運営に向けての課題は？（別府、中神の事例参照）
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	**□観光資源としての温泉の復活** ・温泉を交流の場として活用し、地域の観光産業を活性化させる。 **□農地の再生** ・堆積土砂の除去　・鳥獣対策の実施	**□観光資源としての温泉の復活** **□農地の再生** ・田んぼダムを進めてはどうか。	**□観光資源としての温泉の復活** ・コミュニティ施設と合わせて再生 **□農地の再生** ※再生の意向がない農地を移転先や避難場所として活用できないか？
③災害に負けないまちづくり 【避難対策】	**□村山公園への避難路の整備** ・老人福祉センター付近の道の拡幅整備。 ・スポーツパレスから線路を渡れる踏切等の整備。 ・村山への道路を車が離合できるように拡幅。 **□安全な避難場所の整備** ・避難タワー、盛土による高台など安全な避難場所の整備。 **□防災情報の伝達機能強化** ・各世帯への戸別受信機の配布（市より、6月から順次配布） **□地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成** ・地区の災害リスクを踏まえた地区防災計画の作成。 ・避難のタイミングを判断する地域独自の「きっかけ」の検討。地区ごとに時間をずらした避難。 ・地域の避難行動要支援者リストの作成、共有。 ・高齢者へのホイッスルの配布。	**□村山公園への避難路の整備** ・避難先は村山しかないという意識があるため渋滞する。 ・皆が安全に避難できるように避難場所を確保する。 ・スポーツパレスから村山までの避難路の拡幅。【下林・中林】 **□安全な避難場所の整備** **□防災情報の伝達機能強化** ・早く避難するために、早く情報を出してほしい。 ・上流の降雨量情報も合わせて知らせると、よりインパクトがあり、避難時の判断材料になる。 ・地域のつながりをつくり、連絡体制を確保する。まずは顔見知りになる。【下林・中林】 **□地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成** ・温泉町はどうしても浸かる所であり逃げるしかない。 ・市は避難にネックとなる箇所をチェックし管理すべき。道路にはみ出た樹木の管理が不十分。 ・消防団を頼る。高齢者同士の助け合いが難しい。 ・誰が誰を避難させるか。助け合いのシステムが必要。	**□村山公園への避難路の整備** ・スポーツパレスから村山公園への避難路整備。 ・避難路のネットワーク形成（離合できるもの） **□安全な避難場所の整備** ・地区内に安全な避難場所を整備 ※地区内で安全な場所（建物）はどこか？ ※新たに安全な避難場所（命の丘等）を整備する場合、どこに、どれくらいの高さで整備するか？ **□防災情報の伝達機能強化** **□地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成** ・地区防災計画を作成し助け合いのシステムを構築（役割分担、連絡網の作成） ・マイ・タイムラインを作成し災害発生時に備える ※作成にあたっての課題は？
【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	**□小河川の氾濫対策の推進・促進** ・排水機場等耐水化。 ・放水路、浸透・雨水貯留施設等による内水対策等。 **□流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下** ・川辺川ダム整備、市房ダム再開発、河道掘削、遊水地整備等	**□小河川の氾濫対策の推進・促進** **□流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下** ・バイパスをつくる、堤防を80㎝～1.5m高くする、河床を掘削する、など。 ・市房ダムの管理状況やデータを公表してほしい。	**□小河川の氾濫対策の推進・促進** ・排水機場等耐水化、放水路、浸透・雨水貯留施設等整備 **□流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下** ・国、県による流域治水の取り組みと連携したまちづくりの実施

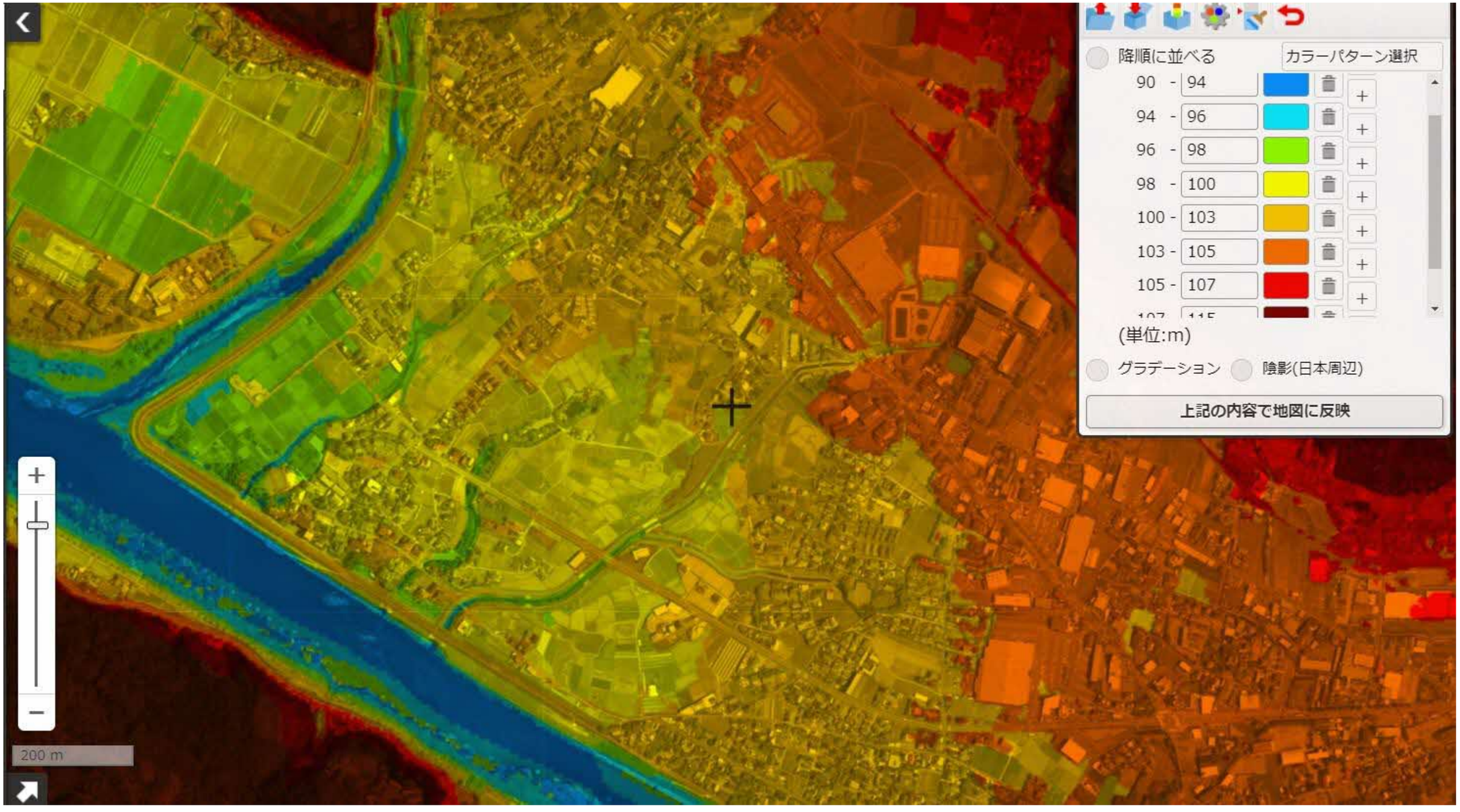
温泉下林地区　復興まちづくりの方向（案）　～これまでの地区別懇談会意見を踏まえた整備イメージ案～



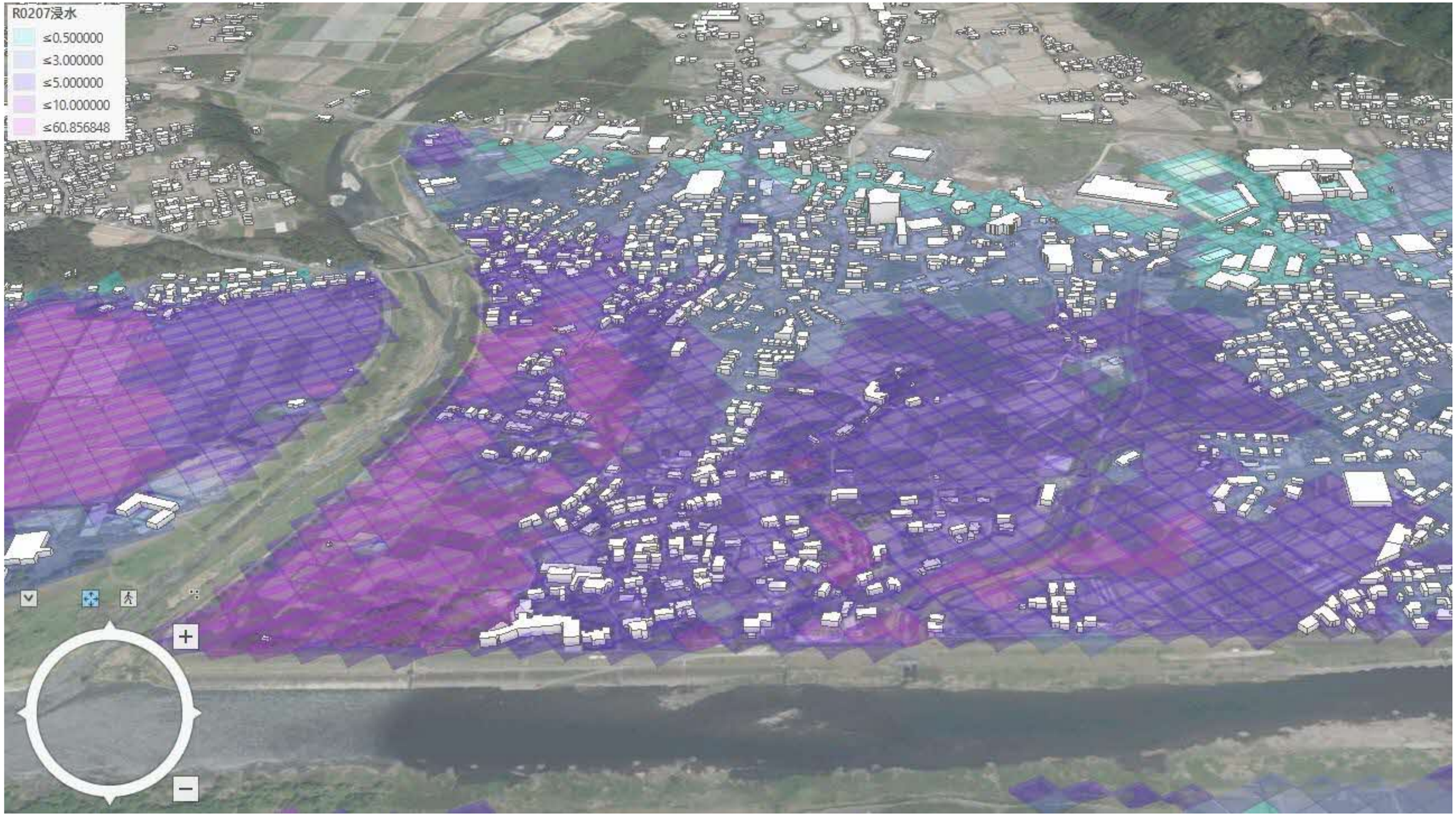
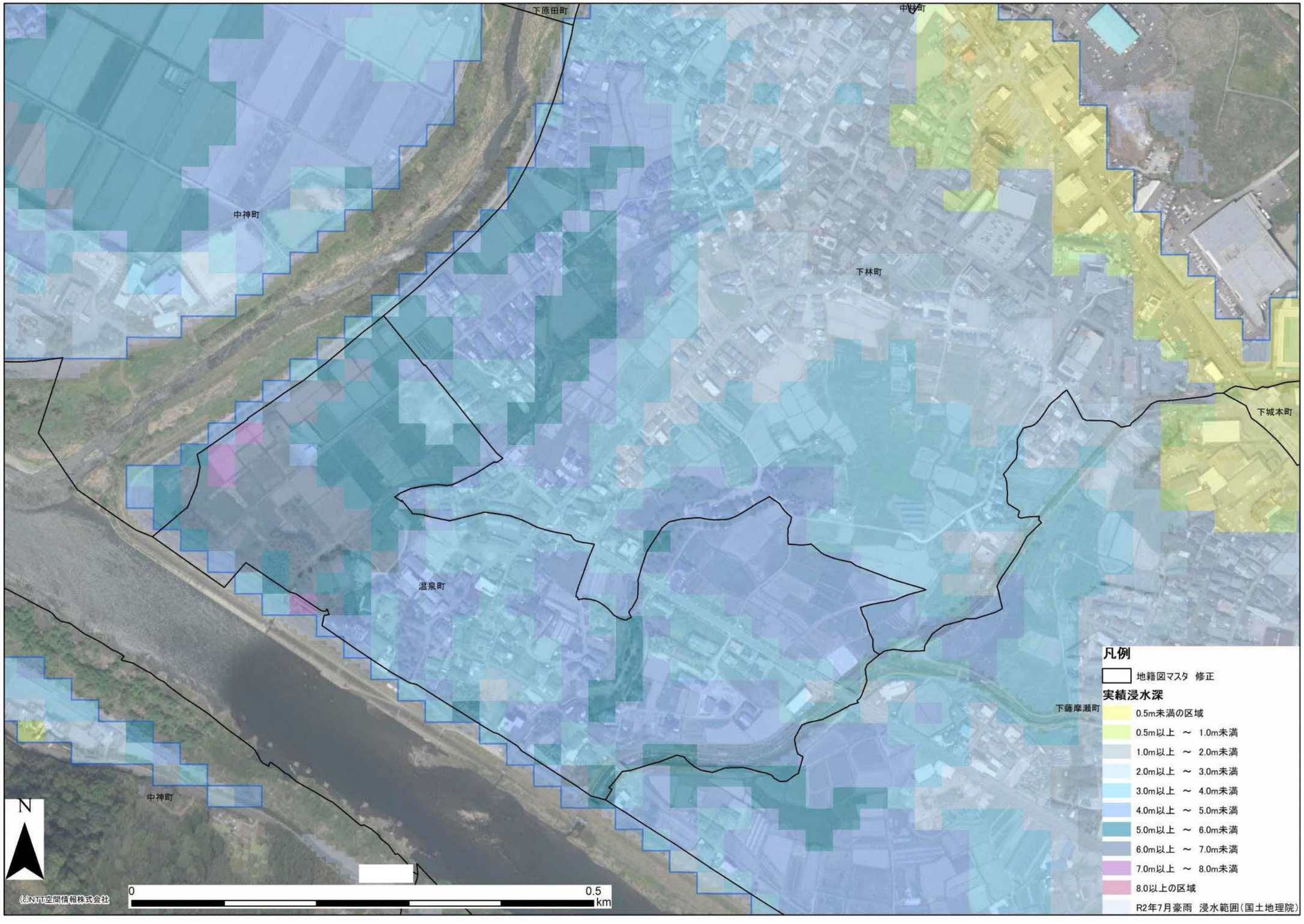


【参考資料】
■標高 （国土地理院地図）

資料４



【参考資料】
■令和２年７月豪雨　浸水深　（八代河川国道事務所提供データ）



【参考資料】
■令和２年７月豪雨　浸水深　（八代河川国道事務所提供データ）